

園芸植物等の栽培に関する実態調査及び食中毒に関する意識調査（概要）

1 調査目的等

（1）目的

園芸植物等の誤食による食中毒予防等についての的確な情報発信を行っていくため、自宅や家庭菜園等における植物の栽培に関する実態と、食中毒に関する意識を把握する。

（2）調査対象者

過去10年間に本人又は同居家族が自宅や家庭菜園等で植物を育てて食べた経験のある20歳以上の都民

（3）調査方法

調査会社によるインターネットアンケート

（4）調査期間

令和5年1月10日（火曜日）から令和5年1月13日（金曜日）まで

（5）回答者属性の設定

「20代」「30代」「40代」「50代」「60代以上」の各年代の男女それぞれ100人ずつ、計500人ずつ設定し、合計1,000人とした。

2 調査結果概要

（1）回答率

回答者全数の回答が得られた（有効回答率100.0%）

（2）食用の植物の栽培及び喫食の実態

ア 植物を育てた人（複数回答）

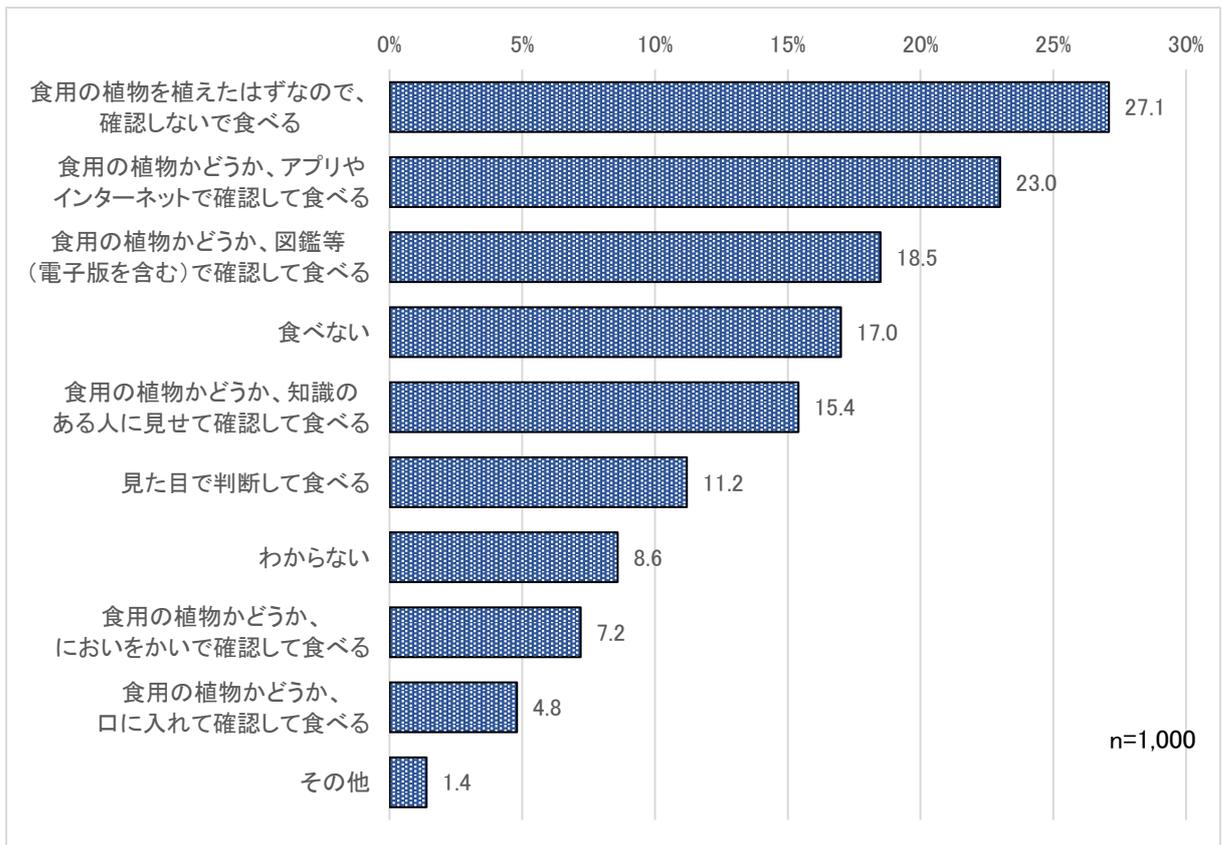
自宅や家庭菜園等で植物を育てている（育てた）のは、「自分」が64.9%、「同居家族」が54.0%であった。

イ 植物の栽培歴

植物の栽培歴については、「10年以上」が33.4%、「4～9年」が29.1%、「3年以下」が37.5%であった。

ウ 確認方法（複数回答）

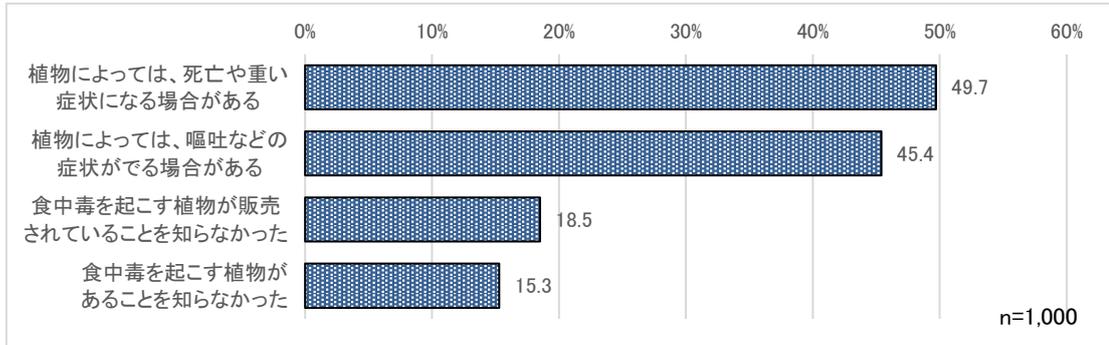
食用かどうか判断に自信がない場合の対応については、「食用の植物を植えたはずなので、確認しないで食べる」が27.1%、「食用の植物かどうか、アプリやインターネットで確認して食べる」が23.0%、「食用の植物かどうか、図鑑等（電子版を含む。）で確認して食べる」が18.5%であった。一方、「食べない」も17.0%あった



(3) 園芸植物等に関連する食中毒の知識

ア 食中毒の知識（複数回答）

植物による食中毒の知識については、「植物によっては、死亡や重い症状になる場合がある」が49.7%、「植物によっては、嘔吐などの症状がでる場合がある」が45.4%であった。一方、「食中毒を起こす植物が販売されていることを知らなかった」は18.5%、「食中毒を起こす植物があることを知らなかった」は15.3%であった。



イ 知っている園芸用の有毒植物（複数回答）

有毒植物による食中毒の知識を持つ人に、食中毒を起こす植物について知っている植物を聞いたところ、「スイセン（ニラと誤認）」が83.0%であった。一方、「チョウセンアサガオ（ゴボウ、オクラ、ゴマと誤認）」は38.3%であるほか、それ以外の植物は、さらに認知度が低かった。

